

-----震災を経験して-----

福島のいのり

いわき支部長 石原 裕子

一九六八年岩手から憧れの宮城学院高等学校に入学しました。大学では日本文学を学びました。振り返ると宮城学院時代は自由な雰囲気の中のびのびと過ごしました。高校の朝礼拝と寮の夕礼拝、そして東三番丁と東一番丁教会。大学生になり仙台広瀬湖畔教会の礼拝へと導かれ、四年のクリスマスに受洗しました。夫との出会いは青年会でした。上の子が小二になる春、福島県いわき市へ転勤となり、住まいの近くの常磐教会へ転会し現在に至ります。

二〇一一年三月一日一四時四十六分、東日本大震災がおきました。常磐教会は会堂の被害が大きく、解体し新しい会堂を作ることに決定しました。二年間付属の白水のぞみ保育園を借りて礼拝を守りつつ、新たな会堂の建築に向け教会員みなで心ひとつに取り組みました。そして二〇一四年四月二十九日震災前と同じ場所に新会堂が完成し、献堂式を執り行うことができました。私たちの祈りの応答として神様から与えられたと信じます。これは一つの復興と言えますが、福島第一原発の廃炉まで三十年とも四十年とも言われており、常に危険が隣り合っています。

そして再スタートした常磐教会には新しい働きが与えられています。一つは放射能の不安を抱える人々に寄り添うための放射能計測所「いのり」が併設され運営されていること。もう一つは双葉町の借上げ住宅に暮らす「いわきまごころ双葉会」の皆さんとの出会いです。会堂を自由に交流できる場として使っていただき、避難生活の中での絆作りの場として活用していただいております。

東北教区の常置委員をつとめ、合わせて四期目となりました。東日本大震災一周年と二周年の記念礼拝で「福島のいのり」を、東日本国際会議では開会礼拝献金の祈りを、昨年は第六十九回教区総会開会礼拝にて司会の大役を仰せつかりました。今年は山口へ西中国教区総会から東北教区へいただいた支援へのお礼と報告の挨拶に伺いました。折に触れ「福島のいのり」を被災地の声として祈ってきました。恐縮ではありますが、その一部を紹介させていただきたいと思います。

恵みに富みたまう主なる神さま、東日本大震災を覚えてここに集められ祈りの時を与えられておりますことを感謝いたします。

二〇一一年三月十一日午後二時四十六分に発生した地震は、大きな長い揺れが何度も続き、多くの家屋が全壊・半壊し、瓦が落ちていく様を目の当たりにしました。沿岸では津波により人々の命・家・大切なものが失われました。そしてあの福島第一原発での事故が起こりました。事故当初、放射能の見えない恐ろしさから家に閉じこもったり、長く続く

た断水のため給水に並んだり、また物資不足が起きました。水蒸気爆発が起こり、たくさんの方が避難生活を余儀なくされました。その後放射能のため農業や漁業を続けられなくなった人が多くいます。また放射能から逃れるため、ふるさとを離れ、県内外に避難している人の中には、子供のため家族が離れ離れの生活をしている人々がいます。どうぞ神さま、不安の中にいる一人一人の傍らにいてください。私たちはいろんな思い・怒り・不安・焦り・苦しさ・悲しみから何度涙したことでしょう。失って初めて当たり前の生活の大切さを改めて思い知らされました。

震災から四年半が経過し、徐々に人々の記憶から風化しつつあります。福島では今も健康を害している人・家族が分断されたままの人・避難生活が続いている人・仕事を失った人・亡くなった人もおり、問題は複雑に変化しております。さらに長期化していることで保障の差別化なども生じ、人々は疲弊しております。いわき市では現在もなお相双地域から二万四千人の方々が避難生活を続けています。除染作業や復興作業に従事する方もいわきで暮らす人が多くいます。福島第一原発から四十五kmに住む者として、廃炉なくして安心を得ることはありません。

神様弱っているものにお支えとお導きをお与えください。どうかキリストの平和がありますように。そして何より御心がかないますように。一人一人があなたに押し出され賜物を十分にいかし生き生きした日々を過ごせますようお守りください。私たちは神様が、定められたこの時を生きて証したいと願っております。東日本大震災で被災した教会を覚え、日本国内そして海外からたくさんのお祈りとお支え、そしてさまざまなボランティアお働きが今日も続いていることに感謝いたします。東北教区の各々の教会が震災後、地域の人々とさらに絆を深めていることができるよう神さまの愛で満たしてください。これらの祈りを御子イエス・キリストの御名によりお捧いたします。アーメン

さて、来る十一月二十八日宮城学院同窓会いわき支部総会を初めて常磐教会にて開催いたします。いわきに住む同窓会の中には、震災以降長年住み慣れた家に住めなくなった方や健康を害した方もいて、以前のようには安心して暮らすことができなくなりました。そんな日々だからこそ、年に一度同窓会と会い、近況を語り合うひと時は大切な時間となるでしょう。支部長として出席される一人一人が笑顔になり元気になる会となりますよう皆さまをお迎えしたいと思います。

最後になりますが、私たちのスクールモットーでもある「神を畏れ、隣人を愛する」を今改めて覚えつつ祈り主を賛美して日々を歩んでまいりたいと思っております。